

主 な 取 組	学習情報の提供						担当課	自己評価
							社会教育課	B
目 標	市民の学習と活動を支援する情報の収集・提供を進め、I C T機器を活用した情報発信の充実を図ります。							
取 組 状 況 及 び 成 果	市民の学習と活動を支援する情報の収集・提供を行い、市公式ホームページ、SNSなどにより学習情報を提供した。 インターネット等を活用した学習情報の提供 「いるま生涯学習出前講座」36件 「生涯学習ガイドブック」年2回、「いるま学びの場」年1回の発行							
指標及び説明	【指標】 学びの場ホームページへのアクセス数				【説明】 ホームページへのアクセス件数により、学習環境の充実度を判断する。			
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値				目標値	
	件	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
		8,834	平時	平時	平時	平時		10,500
		R 2 有事	7,336	7,016	7,678	7,662		R 8 有事
		4,236						5,100
分 析	インターネット等へのアクセス数は近年増加しているため一定の効果を上げていると考える。一方で、その利便性や内容の到達度の向上等、検討の余地は多くあると考える。また、「いるま学びの場」等の紙媒体を用いた情報発信については、有効性が見えづらく、今後状況に応じて発行方法等を見直す必要があるものと捉えている。							
課 題 及 び 改 善 点	学習情報の発信はインターネットやSNS等のデジタル媒体を用いた方法に比重が置かれやすい傾向にあるが、紙媒体を必要とする市民も少なくない。各媒体等の使い分けや各媒体の連携方法を整理するとともに、情報取得方法の周知も含め多様な市民ニーズに対応した情報発信の充実を図る。							

主 な 取 組	学習機会の充実						担当課	自己評価
							社会教育課	B
目 標	市民活動団体や大学・企業等との連携・協働を図り、市民が学んだことをまちづくりに生かせる学習機会を提供します。また、障害者が地域の一員として豊かな人生を送ることができるよう、生涯を通じた学習機会を提供します。							
取 組 状 況 及 び 成 果	市民活動団体や大学・企業等との連携・協働を図り、市民が学んだことをまちづくりに生かせる学習機会を提供した。 まちの先生講座受講者 延べ461人 生涯学習フェスティバル会場参加者 300人 文芸入間投稿者 延べ 114人 いるま生涯学習出前講座受講者 780人 子ども大学さやま・いるま修了生 31人 子ども音楽大学いるま修了生 11人							
指標及び説明	【指標】 生涯学習事業への参加者数				【説明】 事業への参加者数により、学習環境の充実度を判断する。			
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値					目標値
	人	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
		6,308	平時	平時	平時	平時		7,000
		R 2 有事						R 8 有事
		864	3,044	3,690	4,078	1,690		1,000
分 析	参加者数が前年に比べて大きく減少したのは、生涯学習フェスティバルの開催場所を産業文化センターから市民活動センターへ変更したことによるものである。事業の規模を縮小したことにより、参加団体及び来場者は減少したが、団体間の交流を深めるとともに学習機会の提供を継続したという観点において一定の成果を得られたものと考ええる。							
課 題 及 び 改 善 点	市民との連携、協働により実施する事業においては、その後継者不足が課題であると捉えている。若年層や現役世代の参画につながるテーマ設定や周知方法の工夫、またはテーマ設定等から携わることができる事業にするとともに、主体的に関わる市民を増やしていくことが必要である。							

【施策の体系】 2 生涯学習

【政策】 第1項 生涯学習の推進

【政策】第1部 生涯学習政策

施 策	(1) 学習環境の整備			
施 策 評 価	主な取組	担当課	自己評価	総合評価
	学習情報の提供	社会教育課	B	B
	学習機会の充実	社会教育課	B	
学 識 経 験 者 等 意 見	「学習情報の提供」に関して、市公式ホームページやSNS等を活用した情報発信を継続して実施している点を評価いたします。ホームページアクセス数も一定程度維持されており、デジタル媒体を活用した情報提供が定着していることがうかがわれます。また、「いるま学びの場」等の紙媒体による情報発信も継続されており、情報取得手段が限定される市民への配慮がなされている点も評価できます。 一方で、紙媒体の効果測定の難しさや、必要な情報へ円滑にアクセスできるかという利便性の観点では改善の余地もあると考えます。今後は、デジタル媒体と紙媒体の役割分担を整理しながら、多様な市民ニーズに対応した情報提供を進めていただきたいと思います。 「学習機会の充実」に関しては、「まちの先生講座」や「子ども大学さやま・いるま」等、多様な学習機会を継続的に提供している点を評価いたします。一方で、生涯学習事業参加者数は減少しており、後継者不足も継続的課題となっています。会場変更等の影響もあったものの、若年層や現役世代の参画促進に向けたテーマ設定や周知方法の工夫が今後重要になると考えます。 また、「障害者が地域の一員として豊かな人生を送ることができるよう、生涯を通じた学習機会を提供する」という目標については、本年度の取組状況や成果がやや把握しにくい印象を受けました。次年度以降は、障害のある市民への取組や配慮事項についても整理されることを期待します。			

主 な 取 組	学習成果活用の奨励						担当課	自己評価
							社会教育課	B
目 標	市民が学習した成果を発表する事業の充実を図り、市民の学習活動を奨励します。 市民が習得した知識、経験、技術等を地域へ生かす市民講師登録制度の充実を図る。また、登録した市民講師が実施する講座の充実を図ります。							
取 組 状 況 及 び 成 果	市民が習得した知識、経験、技術等を地域へ生かす市民講師登録制度を実施し、その登録した市民講師の活躍の場として、市民講師によるまちの先生講座を実施した。 まちの先生（市民講師） 51人 まちの先生講座 26講座（受講者数延べ461人）							
指標及び説明	【指標】 市民講師数、事業の実施数				【説明】 生涯学習に関する市民講師の人数及び市民講師が実施する講座の数により、市民の学習成果活用の推進度を判断する。			
指標の推移	単位	現状値	実 績 値					目標値
	人 講座	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
		61 31	平時	平時	平時	平時		65 35
		R 2 有事						R 8 有事
		61 22	55 9	47 27	49 26	51 26		— 25
分 析	市民講師である「まちの先生」への登録は増加している。また、指標にはないが「まちの先生」の活用件数についても増加していることから、学習成果の活用機会や市民の学習活動の奨励につながってきているものと考え。一方で、講師主体で実施する「まちの先生講座」については横ばいとなっていることから、テーマの需要やその仕組みについては検討の余地があるものと捉えている。							
課 題 及 び 改 善 点	「まちの先生」や「まちの先生講座」の活用については、市民ニーズに左右される部分がある。そのため、登録講師と連携しながらその活用増加に向けた検討を行うとともに、新たな講師の開拓等、幅広い市民ニーズに対応できるよう充実化を図る。							

【施策の体系】 2 生涯学習

【政策】 第1項 生涯学習の推進

【施策】 (2) 学習成果の活用

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】 P 1 3

主 な 取 組	市民との協働						担当課	自己評価
							社会教育課	A
目 標	地域で仲間と学ぶ市民を「いるまなびと」として位置づけ、「いるまなびと」が市民に定着し、より多くの市民が「いるまなびと」として学びを推進し、学んだことを暮らしや地域に生かし、市民との協働で各種事業の計画・立案・運営を進めていきます。							
取 組 状 況 及 び 成 果	学んだことを発表する場として、市民の投稿による冊子である文芸入間を発刊した。 市民との協働で生涯学習フェスティバルを実行委員会方式で実施した。 文芸入間 第48号の発刊 第30回いるま生涯学習フェスティバルの開催							
指標及び説明	【指標】市民活動団体等の協働による事業数				【説明】連携協力による事業数により、市民との協働の推進度を判断します。			
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値					目標値
	事業	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
		2	平時	平時	平時	平時		2
		R 2 有事						R 8 有事
		2	2	2	2	2		－
分 析	市民との協働で実施する上記2つの取組については、年々委員数の減少がある中ではあるが、生涯学習フェスティバルについては会場や開催形式の変更、文芸入間については頒布方法の変更等、事業継続とその効果の観点で検討を重ね事業を実施した。その事業実施効果については、両事業ともに現状の中でより良い形となるよう実施できたものと考えている。							
課 題 及 び 改 善 点	主体的に関わる委員等の数が減少していることが課題である。主体的に関わる市民を増やす方策や仕組みについての検討を行うとともに、協働により実施する事業がより効果的なものになるよう、他事業等との連携や協働における役割分担について再考が必要である。							

【施策の体系】 2 生涯学習

【政策】 第1項 生涯学習の推進

【表1】第1期「まちの先生」活動実績					
施 策		(2) 学習成果の活用			
施 策 評 価	主な取組		担当課	自己評価	総合評価
	学習成果活用の奨励		社会教育課	B	
	市民との協働		社会教育課	A	
学 識 経 験 者 意 見 等	「学習成果活用の奨励」に関して、「まちの先生」登録者数や活用件数が増加している点を評価いたします。市民が学んだ成果を地域へ還元し、市民同士の学び合いにつなげていくことは、生涯学習推進において重要な意義を有していると考えます。				
	一方で、講座数は横ばいで推移しており、市民ニーズとの適合や制度周知のあり方については検討の余地があります。今後は、新たな講師人材の発掘や、より多様な世代が参加しやすい講座内容の工夫を期待します。				
	また、「市民との協働」に関して、「文芸入間」や「生涯学習フェスティバル」を実行委員会方式で継続実施している点を高く評価いたします。一方で、主体的に関わる委員数の減少は今後の事業継続性に関わる課題であり、若年層や新規参加者が関わりやすい仕組みづくりについて検討が必要であると考えます。				